

育成委員会だより

あまぬま

令和5年
(2023)
3月10日
第85号

天沼青少年育成委員会
発行責任者
五十嵐 恵子
印刷：タイヨー美術印刷株式会社



大根収穫体験

令和四年十二月三日(土)、杉並区清水の松原さんの畑にて大根収穫体験を行いました。

快晴の寒空の下、リングゴのようなほっぺの元気な一、二年生が八十四名も集まってくれました。

清水森公園に集合後、整列して畑へGo！参加人数が多かったためグループ分けして順番に収穫体験をしました。

順番待ちをしている時「煮物にしてもらったら美味しそう！」「とか「漬物がいいな」などシブいリクエストや「大根おろしは苦手…」などと、収穫前から大根をいただく事を想像して楽しそうに話していました。

いよいよ畑に到着すると子どもたちは、黒々とした土と少しだけ頭を出してフサフサの葉っぱを生やした大根に目を輝かせていました。

収穫後は、自分の背の半分以上もある大根を持って得意げに見せてくれた笑顔がなによりでした。

(国吉 悠介)



「抜けたよー」大きな大根に笑顔が弾けました



ふたりの中学生ボランティアが旗を持って誘導してくれました

すぎくラブ秋祭り

十一月十二日(土)「すぎくラブ秋祭り」を開催しました。一三三名の子どもの参加と二十一名の地域の方にご協力をいただきました。

三年生以上を対象とした子どもスタッフは、射的、わなげ、人形すくい、缶バッチ屋、占い屋、お菓子屋さんの6ブースを出店しました。各ブースでは約一ヶ月間、どんなお店にしたいかを話し合い、企画・準備・運営を子どもたち自身で行いました。ブースの看板や道具、景品は全て手作りのものを用意し、当日は祭りを楽しみながら、お客さんを並ばせて上手にルール説明をしたり、元気に呼び込みをしたりと大活躍し祭りを盛り上げてくれました。

地域の方には、ボウリング、フォトスポット、こま作り、レザーストラップ作り、お話し会、絵あわせ対決、こまパークの7ブースにご協力いただきました。地域の方と一緒に子どもたちを見守る活動は、子どもたちがお友達と、そして地域の方とのふれあいを通して祭りを楽しむことができる時間となりました。

まだまだコロナ禍で制限のある中ですが、これからも子どもたちが楽しみながら輝ける活動を通して、地域に、社会に、そして子どもたちにたくさんの笑顔が広がるように今後も取り組んでいきたいと思えます。(クラブ長 加藤 崇)



おかしな王国



スタジオ sugi9



どんぐりころころボウリング



いとうさんのこまパーク



絵あわせ対決



たべものワイワイしゃてき

MY箸づくり教室

十一月六日(日)ウェルファーム杉並に、杉九小八名、天沼小二十二名の三〜五年生と当委員九名が集まりMY箸づくりをしました。講師は箸専門メーカー(株)兵左衛門の時田響子さんです。

まず箸についてお話があり、特に印象的だったのは『はし』という言葉の意味は「端っこと端っこを繋げるもの」で「食べ物(命)と私たちを繋げるもの」であること。箸を正しく持つて正しく使うことは、周りの人を不愉快な気持ちにしない思いやりの現れであること。黙食が求められる今だからこそ、感謝と思いやりの心は忘れたくありませんね。

それから、お箸になる木材は折れたバットのサイクルであること。高校・大学・社会人・プロ、野球界で使われたバットが福井県小浜市の兵左衛門さんに回収され「かっどばし!!」なる商品に生まれ変わり、売り上げはバットの優れた材料になる『アオダモ植樹基金』にあてられているそうです。いよいよお箸作りが始まると、自分の手の大きさに合わせてノコギリでカット。初めて会ったお友だちと協力しあってゴリゴリ切りました。その後は和気あいあい、おしゃべりしながらヤスリをかけて、色を塗ったり模様を描いたり、とっても楽しく充実した時間となりました。

(齊藤 睦美)



あっぱれ上荻マリモまつり

十月五日(水)に上荻児童館にて、「あっぱれ上荻こどもまつり」を行い、小学生など一四〇名が参加しました。

昨年同様、上荻児童館館内で実施しました。昨年は規模を縮小して小学生だけの参加でしたが、今年度は乳幼児親子の方にも参加していただくことができました。

おまつり当日は、あいにくの雨模様でしたが、子どもたちのゲーム屋さんや、民生委員さんにご協力いただいたスパーボールすくの計8店舗での開催となりました。前日のリハーサルの時よりも大きな声で張り切って店番をする様子や、手作りの景品を選ぶきらきらとした表情がマスク越しにも伝わってきました。参加者の笑顔がいっぱいのおまつりでした。
(上荻児童館 西崎 沙織)



委員研修 工場見学

十月十三日(木)、八王子にある島田電機製作所の工場見学に伺いました。こちらはエレベーターの押しボタンや到着灯などの意匠器具を製作されています。

パークカウンターの素敵な社内カフェで、製品や会社概要を説明いただいた後に見学がスタート。エレベーター仕様のドアや、カラフルで解放的な会議スペースなど、そこかしこに遊び心を感じます。

見学ツアーでは営業や検品など各部署の担当さんが説明くださいます。製作部署では、アクリルや金型の加工機械が見学できた上に「バフ研磨」という製品を磨き上げる工程を体験させていただきました。

参加者としてはとても興味深く楽しい体験でしたが「工場見学の受け入れは負担では？」との委員の質問には「むしろ社員のため」との回答が。各部署の社員によるプレゼンは、自社を知りそれぞれの仕事に誇りを持つことにつながるというお考えからでした。個人が直接購入する商品ではないのに会社側のメリットがあるのかと疑問に思っていたのですが、もっと大きな視点で行っていることに感銘を受け、育成委員のように地域で共に活動する者にも参考になる考え方だと思いました。
(河野 知恵子)



見学ツアー名物「1000のボタン」世界中で利用されているエレベーターボタンや島田電機オリジナルのボタンを1000個設置。早押しチャレンジは大盛り上がりでした。



発想スペース入口。室内にも工場内にも社員のアイデアメモが掲示されている



難しいは新しい だから面白い



バフ研磨体験。おしゃれな髪社員さんはもの静かで親切

自分らしく 全員主役



タイムカードの上のやる気ボタン 全員の写真と気持ちが入るひとことが



委員研修 瞬間ボランティアってなあに？

『瞬間ボランティア』は「いつでも、どこでも、誰でも」「普段は感じないが、なにか変、おかしいと感じられる場面に咄嗟に起こす行動」です。

- ちよつと声をかけてみる。挨拶だけでも。
- ちよつと気にして視線を向けてみる。
- ちよつと聞いてみる。
- 笑顔を向けてうなずいてみる。

そんな何気ないことで、誰かの気持ちが上向きになったり、意地悪な気持ちを恥ずかしく思ったり、事故や事件を未然に防ぐことにつながることもあるのなら、私にもできることがあります。うだと思えました。

(浅賀 由美)



子育て支援



日本大学第二高等学校
校長 中島 正生

地区にお住いの皆様、青少年育成に携わる皆様、そして「あまぬま」読者の皆様、はじめまして。日本大学第二高等学校の校長を務めている中島正生です。

コロナ4シーズン目を迎えた二〇二三年は、コロナとインフルエンザ同時流行警戒下での幕開けとなりました。さぞや、皆様も感染対策に気遣い戸惑いの絶えない日々をお過ごしのことかと拝察いたします。

さて、昨夏の甲子園では、東北初の全国優勝を成し遂げた若き青年監督の発した言葉が全国の共感を博しました。「青春って、すごく密なので、でもそういうことは全部『だめだ、だめだ』と言われて、活動していてもどこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で、でも本当に諦めないでやってくれた」。この言葉は、私の胸にも刺さりました。同時に、コロナ禍によって各地では密の回避が求められ、学校においても生活を彩るはずの修学旅行や体育祭などは相次いで中止または縮小となり、若者たちの多くが仲間と体験を分かち合う貴重な機会を奪われていることを思い起こさせました。

コロナの影響は何も子どもたちの事だけではないことは確かです。大人もお年寄りの皆様も大変。けれども、長きに亘るコロナの影響は、子どもたちの「育ち」を損ない、あまぬま地区が預かる子どもたちにも深く暗い影を落としているのではないのでしょうか。決して、一つの家庭だけでは子どもの成長を支え切れない。こういう苦難の時だからこそ、これまでも増して地域の連携と地域全体で子どもたちを見守る機運づくりが必要なのだと思います。

*「子育て」ではなく「子育て」（子供自身が持つ力を見守り育てるという意味）

天沼小学校親子防犯教室 天沼小PTA

十月一日(土)、NPO法人体験型安全教育支援機構代表理事、清永奈穂さんによる防犯教室「インターネットトラブルに注意しよう」が高学年児童二十名、保護者二十四名対象に行われました。

低学年で学んだ合言葉「はちみつじまん」や「ひまわり」はSNSの中の怪しい人を見分けることにも役立ちます。加えて、**おくらない、ことわる、のせない、みせない、やめる、きそくをまもる、そうだんする、すぐしらせる『おこのみやきそーす』**の合言葉でSNSを安全に使います。
(広瀬 玲子)



防災標語コンテストを開催 杉九小PTA

学校、近隣町会、PTA役員で話し合いを重ね、新たな取組みとして防災標語コンテストを開催することにしました。

災害が起きた時、「自分は何をすればいいか?」「家族とどのように連絡を取り合うのか?」「どこに避難すればいいのか?」など、防災に対する意識や心構えなどを家庭内で話し合っておくことはとても重要です。コンテストに向け、「防災標語」を親子で一緒に考えたり、防災の話をしたりしながら、子どもたちの防災意識を高めるよい機会にしたいと思います。
(稲川 登史子)



お知らせ

・令和五年四月から区公式ホームページ内に青少年育成委員会の紹介ページが作成されます。
・すぎなみ地域コムにも当育成委員会のホームページがあります。
こちらからご覧ください↓



令和四年度

行事報告

新旧常任委員会 定期総会	四月二十五日
常任委員会	五月十八日
とうもろこし収穫体験	七月十二日
すぎくラブ「かがやけ!みんなの夏休み」 〜ステキな五人組大作戦〜	七月二十三日
天沼少年野球大会 会場が確保できなかったため中止	八月二十六日
あつぱれ!天沼カップパーランド夏の陣 常任委員会	九月二十六日
あつぱれ上萩こどもまつり 委員研修	十月五日
広報「あまぬま」第八十四号発行	十月十三日
MY箸づくり教室	十月十五日
すぎくラブ秋祭り	十一月六日
大根収穫体験	十一月十二日
常任委員会	十二月三日
委員研修	十二月十二日
天沼少年野球交流試合	一月十三日
あつぱれ!天沼カップパーランド春の陣	二月二十五日
広報「あまぬま」第八十五号発行	三月八日
有害環境改善パトロール 常任委員会	三月十日
ボウリング教室	三月十三日
	三月二十七日

卒業・進級おめでとう

3月27日(月)

第15回 小中学生のための

ボウリング教室開催!

